



闇に眠るもの 特別篇

3月27日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

3月27日のおはなし「闇に眠るもの 特別篇」

再び闇の中にわたしはいた。

触れることができるようなねっとり濃いやつ。わたしは思わず手を前に出しそれに触れようとするが、もちろん手には何の抵抗もなく、何にも遮られることなく、闇の中差し出された手は宙を切る。そしてまたいつもの通り考える。何という闇だ。自分の手を見ることもできないぞ。手を自分の顔にそろそろ近づけながら何とかその形をとらえられないか努力するが、やはり全く何も見えない。ひょっとすると自分は目をつぶっているのではないかと、これもいつもと同じことを思う。

これなら。不意に、いつになくグロテスクな想像が浮かんで、わたしは思わず身震いする。これなら、この闇の中なら、まぶたを切り取られてもまぶしくないことだろう。何てことを考えるんだ。あわててそのイメージを振り払い、わたしは意識を集中し、自分がいまいる場所を探ることにする。

近くに誰がいるだろうか。背後に気配を感じるような気もするがよくわからない。わたしは腕を左右一杯に広げ、その場でゆっくりと回ってみることにする。何かに手が当たることを期待して。けれどもわたしの手はむなしく闇をなでまわし、何にも触れない。そのうち自分が果たして一周したのかしてないのか、もっとたくさん回ってしまったのかもわからなくなる。最初にどっちを向いていたのかがわからなくなったことで一瞬焦るが、どっちみちそこには何の意味もないことを思い出し、気持を落ち着ける。

やがて、それが始まる。最初は遠くでチラチラと何かが動いたような気がする。非常にかすかな光が見えたような、あるいはそれは目の錯覚で、実際には光などないのに、幻覚を見ているようにも思える。しかしそんな風に悩む間もなく光は近づいてきてどんどん数を増していく。ああこれだ。そうしてキラキラがあたりを取り囲むと、そこに懐かしい地下世界が……おや？ 地下世界じゃない。

キラキラの数はいつになく増え、というか増え過ぎ、徐々に明らかになるその場所は、仄暗いパリの地下世界ではない。やたらキラキラが眩しいので見上げると、頭上からは巨大なシャンデリアがぶら下がっている。シャンデリアだって？ そして周りを見ると、金、銀、緋色、深緑、檸檬色が氾濫している。床は白黒のタイルがエッシャーのだまし絵のごとき模様を描き、どぎついピンクやオレンジやあまがえるのような鮮やかなグリーンガラス玉が埋め込まれている。

何だこれは？ 正面を見ると大階段がある。だ、大階段だって？

大階段の上からは、いままさに色とりどりの羽飾りを頭につけ、絢爛豪華な衣装を身にまとった女性たちが次から次に降りてくる。派手な音楽が鳴り渡り、レビューが始まる。豪奢な衣装を身にまとった女たちがステップを踏み、くるりと旋回し、手にした扇を翻す。いまやキラキラは前からも右からも左からも天井からも足元からも押し寄せ、その反射がまぶしくてわたしは後ずさりする。こんなじゃない！ わたしが見たかったのはこんなじゃない！ キラキラし過ぎだ！ やり過ぎだ！

* * *

「やり過ぎだ！」と叫んでわたしは現実に戻ってきた。

「あれ？ なんか違いました？」手にしたグラスを清潔なふきんで拭いながら、カウンターの向こう端からマスターが近づいてくる。「ちょっとサービス目に見てみたんですけど。今日のカクテル『キラキラ』」

「ああ」わたしは肩で大きく息をつき、それからここがバーMARS STONEであることを思い出す。「ひどいもんだった」

「なんです？ エログロの極地みたいな？」

好奇心むき出しでマスターが尋ねる。まったくこの店は。自分では確かめないのだろうか。客は実験台か？

「逆だよ」わたしはため息をついて言った。「あれじゃ宝塚だ。『ギラギラ』だ」

「おとととー」マスターは全く悪びれずに明るく笑う。「ま、それはそれでニーズがありそうですね」

それから彼は声を張り上げ、店の奥でテーブルを片付けていた女の子にこう言う。

「『キラキラ その2』はツカファン向け。書いといて！」

(「キラキラ その2」 ordered by delphi-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

闇に眠るもの 特別篇

<http://p.booklog.jp/book/46704>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46704>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46704>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.